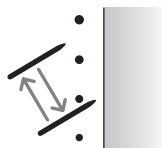


注意点1

ボディに向かう軌道で
ピッキングの高速化を図る

このフレーズのように1本弦につき2回などの偶数回ピッキングを行なう場合には、ボディに向かうように直線的に押して(ダウン)、引く(アップ)イメージで弾くと良い(図1-a)。弦を弾いたあと、ボディから離れていくようなダウン・ピッキングは、振り子のような軌道となり、動きに無駄が多いのでNG(図1-b)。1本弦の偶数ピッキングは、弦移動した際に必ずダウンから弾き始めることになるので、直線的な動きをした方が、スムーズに異弦をピッキングできる(図1-c)。しっかりと弦の下に埋め込む感覚でダウン・ピッキングを行えば、次のダウンへ移る瞬間に自然と弦にピックが当てられる(アップ・ピッキング)。つまりダウン・ピッキングを連打している感覚で、自然とオルタネイト・ピッキングができるのである。

図1-a 直線的なダウン&アップの軌道



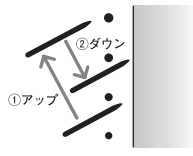
直線的なため無駄が少ない。

図1-b 振り子状なダウン&アップの軌道



動きが大きいため無駄が多い。

図1-c アップ後の弦移動ダウンも直線的に!



直線的な動きのためスムーズな弦移動が可能。

注意点2

パワー・コードを用いた
ロック・リフ・メイキング法

ここでは、このリフで使われている2音のみで構成されたコードを紹介しよう(図2)。まず1つ目は一般的なパワーコード。2つ目は、メジャー3度のルート音を1オクターブ上で押弦するコードで筆者は“メジャー・パワー・コード”と呼んでいる。3つ目は、ディミニッシュ・コードの2音だけを使った筆者が“ディミニッシュ・パワー・コード”と呼んでいるコード。これらのコードは、パワー・コードをベースにしているため、使われている音は2音だけと少ない。しかし、構成音のオクターブを変えてみたりするなどのアイデアを取り入れることで、非常に印象的な仕上がりとなっている。こういった2本弦だけを用いたシンプルなコードをバランス良く用いることが、ロック・リフ・メイキングのコツと言えるのだ。

図2 3つのパワー・コード ◎ ルート音

正式なコード・ネーム $E_m(\text{omit}3)$ or $E5$ $C(\text{on}E)$ $E_{dim}7$

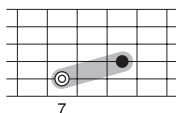
筆者命名のコード・ネーム Eナチュラル・パワー・コード

Eメジャー・パワー・コード

Eディミニッシュ・パワー・コード

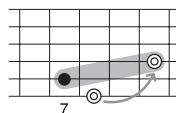
※Eをルート音として考える

①



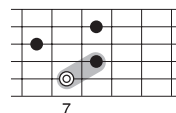
7

②



ルート音を1オクターブ上げる

③



7

～コラム11～

地獄の戯れ言

より速く、正確なピッキングを目指すのであれば、ピックにもこだわった方がよい。形・大きさ・材質などさまざまな種類があるが、まずは偏見を捨てて、いろんな種類のピックを試してもらいたい(写真①)。そうすることで、ジャンルやフレーズによって最も弾きやすいピックがわかってくると思うが、総合的に自分が弾きたいジャンルに適したピックをチョイスすると良いだろう。ちなみに筆者は、材質がポリアセタール、サイズがボール・ギルバート・モデルとジム・ダンロップのJAZZ IIIの中間ぐらいのオリジナルピックを使っている(写真②)。試作段階から手にしっかりとハマり、かなり弾きやすい1枚だ。

超絶を目指すなら小道具にもこだわり！
ピック大研究

ティアドロップ型、おにぎり型などの代表的なピック。いろんな種類を試してみて、自分の理想の1枚を探そう。



筆者のピックは中央。左がボール・ギルバート・モデル、右がジム・ダンロップのJAZZ IIIとなっている。